

「過渡安置房」 中国経済新聞 080815 掲載

四川大地震で家を失った被災者のため、中国政府はまず大量のテントを被災地へ送り、つづいて仮設住宅の建設に取り組んでいる。第一期分の目標は百五十万戸。この仮設住宅を中国語で「過渡安置房」という。「安置」は人や物を落ち着かせることで、「房」は家屋。

日本と同様のプレハブ工法によるユニットハウスが基本になっており、おおよその基準は、一戸が約二十平方メートルで居室のほか炊事場付き。五十戸ごとに屋根付きの水道、洗面所、洗たく場、シャワー室と公共トイレ、ごみ収集設備が設けられる。さらに千戸ごとに小学校、診療所と商店が、二千戸ごとに中学校が設けられる。防水・耐震・断熱などの品質要求があるのはもちろんだが、耐久年限は三年とされている。

つまり、三年以内に本格的な住宅に移り住むわけである。都市部の場合は本紙六月十五日号の本コラムに書いた公営住宅、または自力再建の住宅に入居する（後者には補助金がつく）。

一か月前にこのコラムで書いたように、沿海地域など十九の省と直轄市が、それぞれ被災地の一つの県・市を特定して一対一の支援体制が取られているが、仮設住宅の生産と建設もその一環に組み込まれており、全国各地の工場でユニットハウスの生産が大車輪で進められている。

胡錦濤主席は六月下旬に河北省廊坊市の工場と建設会社を訪れ、従業員の労苦に感謝するとともに激励した。この工場は従業員千人で一万三千戸の生産を引き受け、建設会社は六千戸を建てるため五百人が現地で働いている。

中国政府は地震発生直後から毎日、死傷者と行方不明者の人数、義損金の金額などを公表しているが、最近はこれに「過渡安置房」の建設状況も加えられた。ちなみに八月三日現在の状況は、建設済み六十万三千六百戸、建設中四万四千戸、輸送中二万一千戸などとなっている。

問題もいろいろあるようだ。まず、建設用地の確保だが、特に農村では適当な空き地がなく、さりとて農地を占有するわけにもいかない。

「農村では、冬に入る前に本格的な住宅を再建すればよく、仮設住宅は二度手間になる」との声もある。なお、規定によると、農家が住宅を再建する場合、一戸あたり一万元の補助金が支給される。

建築材料の不足も目立つ。鋼材とポリスチレンは関連工場が増産に努めているが、基礎打ち用のセメントは、環境保護のため地元の小型工場がかなり閉鎖されたこともあって、入手が難しいようだ。徳陽市では、倒壊した家屋のコンクリートや煉瓦を処理・再生産する工場をつくることまで検討されている由である。